

立山砂防安全施工管理技術研究発表会

富樫慶郁氏(酒井建設)が最優秀賞

北陸地方整備局立山砂防事務所工事安全対策協議会(会長・野呂吉之立山砂防事務所長)は9日、令和3年度立山砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会をホテルフアータとやま(富山市奥田新町)で開催した結果、最優秀賞は富樫慶郁氏(酒井建設)、優秀賞は伊東聡史氏(辻建設)、松田友幸氏(松本建設)に決定した。

今回は新型コロナウイルスのオミクロン株感染拡大に伴い、会場での一般聴講をオンライン配信(約200名)に変更し、発表者、審査員、一部役員、スタッフなど約30名が会場に集まる形で行われた。

野呂会長は冒頭のあいさつで、研究発表会が始まった経緯、目的などを説明し、「砂防工事が必要とされるのは元々危ない場所であり、斜面を削り、川底を掘るなどの行為は一時的にせよ、危険性がさらに高まるので、関係者全員で認識し、安全施工にベストを尽くして頂きたい。本日の発表会が、安全施工に向けた有意義な意見交換の場となるよう祈念したい」と述べた。



あいさつする野呂会長

引き続き、後援機関、審査委員の紹介が行われ、今年度に応募があった39編(立山砂防事務所発注の工事29編、業務10編)から審査で選ばれた7編(同工事6編、業務1編)の論文発表、質疑応答などが順次進められた。

また特別講演として、令和3年度全国砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会で優秀論文に選ばれた竹腰水井建設の現場代理人・永井俊朗氏(余沢河川国道事務所発注工事)と松本組の現場代理人・松本匡平氏(立山砂防事務所発注工事)の論文発表がオンラインで行われた。

同発表会は、平成8年12月6日に発生した新潟・長野県境の蒲原沢土石流災害(作業員14人死亡)を教訓として、平成11年度から毎年行われており、今年で23回目。立山砂防工事に携る工事従事者が施工管理の新たな技術を相互に発表・意見交換し



論文発表の様子

【最優秀賞】
▽富樫慶郁(酒井建設)
■「護床ブロック工の施工における安全対策について」

合つことで、今後の安全施工に関する技術の向上につなげていくことを目的としている。

後援は、富山労働基準監督署、建設業労働災害防止協会富山県支部、(一社)富山県建設業協会、(一社)富山市建設業協会、立山町建設業協会、栗業建設新報社、富山県土木施工管理技士会、砂防施工管理研究会。

審査結果は次の通り(氏名、所属会社、論文)